

# 常松大谷遺跡 つねまつおおたにいせき & 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき



溝の中に倒れた状態で出土しました。



F 図です。

立てるとこんな感じかな ♪

今日は・・・  
さしものこしかけ  
古墳時代の指物腰掛  
が出土！

さしもの  
指物とは、溝や穴で木と木を組み合わせて  
モノを作ることを言います。

常松菅田遺跡では、古墳時代初め頃（約 1,700 年前）の溝の中から、木製の指物腰掛が出土しました。

指物腰掛は、組み合わせて作るため、座る部分の板（座板）や脚が、はずれた状態で出土することが多く、左の写真のように組み合った完全な姿で見つかることは大変まれです。

溝の中からは、今後も様々な木製品が出土することが予想されます。次は、どのような木製品が姿を現すのでしょうか。(o^v^)

なお、8月31日（土）に現地説明会を開催します。ここで紹介した指物腰掛も展示します。ぜひ、お越しください！



# 鳥取西道路の遺跡を掘る！

第 52 号 2013 年 8 月 23 日

平成 25 年度に発掘調査を行っている遺跡の位置



## 備前焼のお話

現在の備前焼は、岡山県を代表する美術工芸品として大変有名ですが、その歴史は古く、岡山県の東南部にあたる備前市伊部地域で平安時代末（約 850 年前）から生産が開始されています。

備前焼は、高温で長時間焼き締めるため非常に強く、耐水性に優れた焼き物になります。その特性を生かして、つぼやすり鉢、水がめなどに使われてきました。

鳥取県内の遺跡で備前焼が確認されるようになるのは、鎌倉時代初め（約 800 年前）のことで、国府や郡衙跡など古代の行政施設があった場所でわずかに出土しているにすぎませんでした。その後、鎌倉時代終わり頃になると出土数が大幅に増加しはじめ、集落跡などからも出土するようになります。そのため、この頃から庶民の間に日常雑器として広まったものと考えられます。

現在調査している下坂本清合遺跡でも、鎌倉時代終わり頃のものと考えられるすり鉢が河川の跡から出土しています。当時の下坂本地区に住んでいた人たちが、遠く岡山から運ばれてきた備前焼を日常的に使用していた様子がうかがえます。



現在の備前焼（つぼ）



下坂本清合遺跡出土の備前焼（すり鉢）

## 鎌倉時代の水辺の祈い



人形の頭部です。  
墨で顔と髪を表現しています。  
左を向いているのがわかる  
でしょうか？  
髪型はオカッパ??



人形がみつかった状況です。  
頭と足が表現されています（長さ 23.3 cm、  
幅 5.3 cm）。

## 下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき



舟形です。櫂を取り付ける部分など、  
精巧に表現されています（長さ 15.4 cm、幅 2.2 cm）。



遺跡内には、このほかにも河川跡が何本もみつっています。  
今後はどのようなものが見つかるでしょうか？

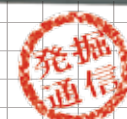
下坂本清合遺跡では、鎌倉時代（約 800 年前）の河川の跡から、人形と舟形という木製品がみつかりました。

これは、古代から続く呪術の道具である、形代と呼ばれるものの一種です。当時の人々は、穢れや災いをこれら形代に移すことで、厄払いを行っていました。鎌倉時代、下坂本の川辺で使用されたもので、当時の人々の祈りが伝わってくるような出土品です。

（公財）鳥取県教育文化財団  
調査室

〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス：  
tottori-kyobun@kyobun.  
sakuratan.com



きびしい暑さが続きますねえ(ー;)… がっ！そんな中でも発掘調査は進んでいます！そして、調査成果もドンドンあがってきています!!  
そこで予告です。来たる8月31日（土）午前11時から常松菅田遺跡で現地説明会を開催します。その当日には、宝喜温泉館さんのご厚意で、入浴料金を参加者割引（当日限り有効）していただけることになりました。現地説明会に参加して温泉で汗を流してはいかがでしょうか。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索



発掘作業風景



4区の堆積の様子

# 東桂見遺跡

ひがしかつらみいせき

## 東桂見遺跡の調査が終了！！

4区で掘り下げを進めたところ、細かな粒の砂の層が見つかりました。この砂が海で堆積した砂ではないかと考えて、部分的に深く掘り下げて下層の堆積の様子を確認しました。海拔0m付近（現在の地面から約8m下！）まで掘り下げた結果、砂は海で堆積したものであり、縄文時代にはここまで海であったことがわかりました。

これで4区の調査は終了し、昨年度から行ってきた東桂見遺跡の調査が全て完了しました。御協力いただいた皆様、ありがとうございました！  
なお、新たに桂見鍋山遺跡の調査を始めました。どんな遺構・遺物と出会えるのか楽しみです！



# 金沢坂津口遺跡

かなざわさかつぐちいせき

## & 松原田中遺跡

まつばらたなかいせき



## 弥生人はきれい好き？



**弥生時代の落ち込み（南から）**  
北側が高く、南西側が低い地形になっています。



金沢坂津口遺跡では、前号でお知らせした弥生時代中期（今から2,200年ほど前）の田んぼの土を除去したところ、同じく弥生時代中期ごろの落ち込みが見つかりました。

この落ち込みからは、長さ3m近い長い板や田下駄などの木製品がたくさん出土しています。地形の高いところでは、こうした木材はあまり見つかっていないので、沼地のような場所にいらなくなった不用品を捨てていたのかもしれない。ゴミはゴミ捨て場に！！きちんとルールを守るきれい好きな弥生人がいたのかも…？（^\_^）

## 弥生人も食べていた？

写真は落ち込みの中から見つかったヒシの実です。集めてみるとバケツいっぱい…。ヒシは池や沼などに生息する水草の一種。その実は食べるとおいしいそうですが、担当者は食べたことがありません。どんな味がするのでしょうか。



たくさんありました



おおきさはこれくらい

# 良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

## 高所作業車、出動！！

夏本番に入り、良田中道遺跡の発掘調査はとうとう縄文時代終わり頃（約2,500年前）の遺物が見つかる地層の発掘調査に突入しました！

この調査面では、昨年度の調査で見つかった大きな流路の延長部分が調査区の東端で確認できました。

今回の遺跡の全景写真は、「高所作業車」を使って、地上27m（ビル7階相当！）の高さから撮影しました。

上から見た遺跡はとても壮観ですが、高所恐怖症の人にはちょっと勇気が必要かもしれませんね。



高所作業車からみた遺跡全景  
縄文時代終わり頃（約2500年前）



高所作業車



# 松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

(1区)

## 謎の石群現る！

調査区の西部で、謎の石群が姿を現しましたΣ(°。°)。調査開始間もなく、重機により現代の耕作土を除去した段階で一抱えもある石が数個頭を出していました。その後、人力で慎重に掘り下げるにつれて、右の写真のように5～80cmの大小の石が敷き詰められたように続々と見つかりました。

石群の中から出土する土器は古墳時代後期（約1,500年前）のものが多く見られますが、弥生時代から室町時代頃まで各時代の土器類も含まれています。

石群の性格については、道、船着き場、古墳の石室、田んぼの段差、窪地に石を捨てたもの…など、調査員の間では諸説紛々としています^\_^。

時期も性格もまだまだ決め手に欠けます。みなさんの推理は？



姿を現した謎の石群